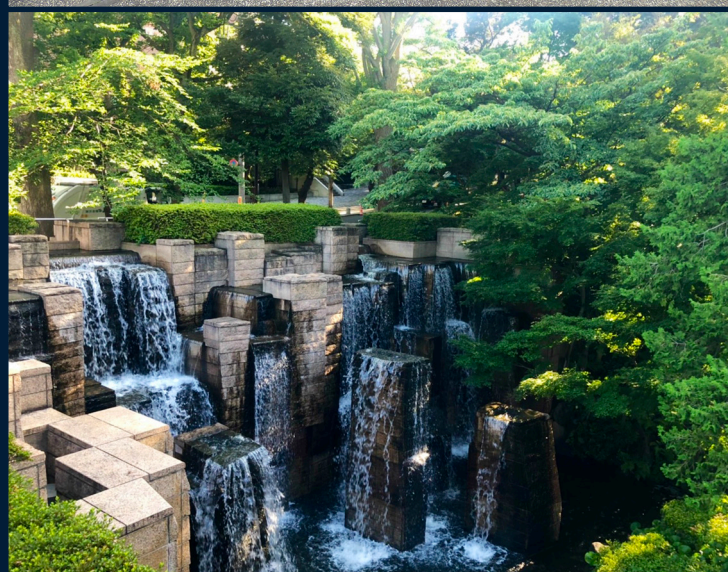
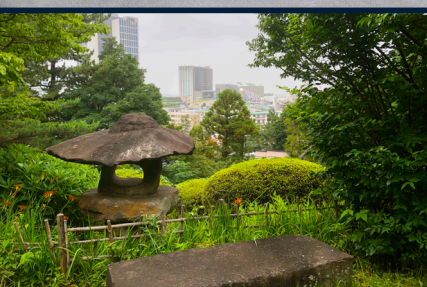
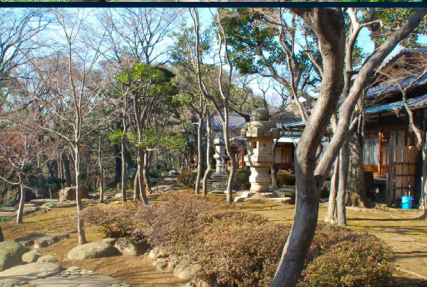


近代庭園マップ東京2020
東京都心 目黒川・多摩川流域編



はじめに なぜ、近代庭園マップ東京なのか—

明治期以降の東京では、皇室、皇族、華族、政府高官らが、数多くの邸宅の庭園を営みました。それらの庭園は、第二次世界大戦による空襲や戦後復興期における都市開発によって失われたものが少なくありません。しかし、明治、大正、昭和初期の庭園は、文化財庭園、美術館といった文化施設の庭園、ホテルに代表される宿泊施設の庭園、大使館の庭園、都市公園内部に保存された庭園等として、今でも私たちは実際に見に行くことができ、日本近代の息づかいを感じることができます。

ただし、例えば建築では『建築マップ東京』といったまちあるき、建築見学の本が書店で手軽に手に入ったり、インターネットでも建築好きの人々が建築散策のホームページを立ち上げて気軽に閲覧できたりする一方で、庭園に関してはそのような便利な本やウェブサイトで十分なものがなかったのも事実です。

それであれば、自分たちで庭園を実際に見て歩く際に便利なマップと解説を作ろうと考えたのが、この研究会の発端でした。まずは身近なところから始めるという理由から、東京の近代庭園を対象として調べることにしました。

2020年1月末から有志でメールのやり取りを始め、3月初旬から研究会でのミーティングを重ね、活動目的を共有しました。しかし新型コロナウイルスの感染拡大によって活動は一時中断したものの、その後オンラインミーティングとウェブサイトによる情報収集、各自の個別調査を経てわかってきたことは、東京の近代庭園は台地縁辺部に数多く立地していたということです。東京は、関東平野南西部の内陸地と南方洋上に分布する伊豆諸島・小笠原諸島などの島嶼部から成り立ちます。内陸地は関東山地、多摩丘陵、武蔵野台地、東京低地などに地形的に分類できます。都内の近代庭園は、武蔵野台地の東側にあたる山の手台地の崖線に立地する傾向にあったのです。今回は、現存する近代庭園のみを対象として調べましたが、戦争や都市開発によって庭園が失われる以前の東京では、崖線沿いに庭園を有するお屋敷が連続的に並ぶ風景が展開していたのでしょう。それを想像するとその光景はさぞ壮観だったと思います。なぜ、東京の近代庭園の多くが台地縁辺部に立地したのか、

その理由は定かではありませんが、高台に屋敷を構えたことで眺望性に優れていたこと、高低差を生かした庭園が営まれていたことは確実にいえることです。現在、東京に残っている近代庭園から、東京の地形的特徴を説明することもできるでしょう。

今回の『近代庭園マップ東京2020』では、山の手台地のなかでも、世田谷区・目黒区・渋谷区・品川区の各区に位置する台地として、目黒川流域と、多摩川流域の都心部に立地した庭園を対象としています。ここで見つかった近代庭園について、台地の上部から何が見えたか、高低差の造園処理はどのようにになっているか、高台と低地部の空間構成・庭園の様式（台地・低地）はどのようにになっているかを、それぞれ「みどころ」「魅力」としてメンバーがまとめたものです。さらに、高台の庭園をどういった人々が好んだのか、所有者を中心に庭園のあゆみについても確認することにしました。

ここに掲載された情報は、新型コロナウイルスの感染拡大によって文献資料の活用が不十分な点も否めません。本来庭園は、単独でおこなうよりもグループでおこなったほうが複眼的視点からその特徴を発見できるものですが、今回は学生たちが個々でおこなったため、学生が気付かなかった個々の庭園の特徴も少なくないと思います。ただし、ひとりひとりが熱心に調べたことはまぎれもない事実です。

この『近代庭園マップ東京2020』を手にとった方が、東京の近代庭園を探訪するうえで有益で便利なガイドとなれば幸いです。

2020年8月29日

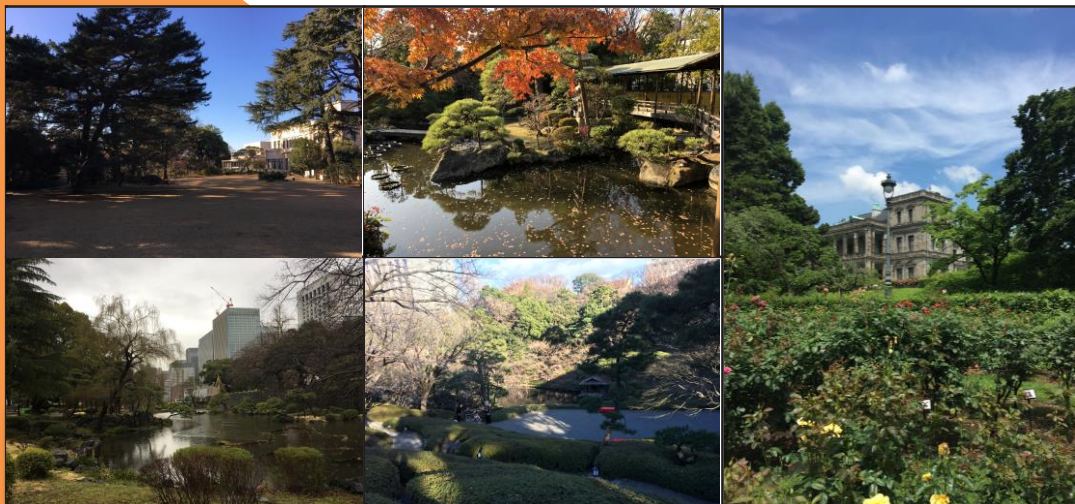
◆近代庭園マップ東京研究会2020 メンバー

井上 琴海、岡田 梢、中谷 夏巳、平野 柚葉、古屋 僚大、松浦 秀喜、三浦 樹、吉田 雄哉（以上、東京農業大学地域環境科学部造園科学科3年）、長谷川 侑哉、森藤 未来（以上、同造園科学科4年）、呉 京樺（東京農業大学大学院造園学専攻博士前期課程1年）、小島 周作（同大学院造園学専攻博士後期課程3年）、吉村 悠（筑波大学大学院博士前期課程人間総合科学研究科世界遺産専攻2年）、栗野 隆（東京農業大学地域環境科学部造園科学科准教授）

目次

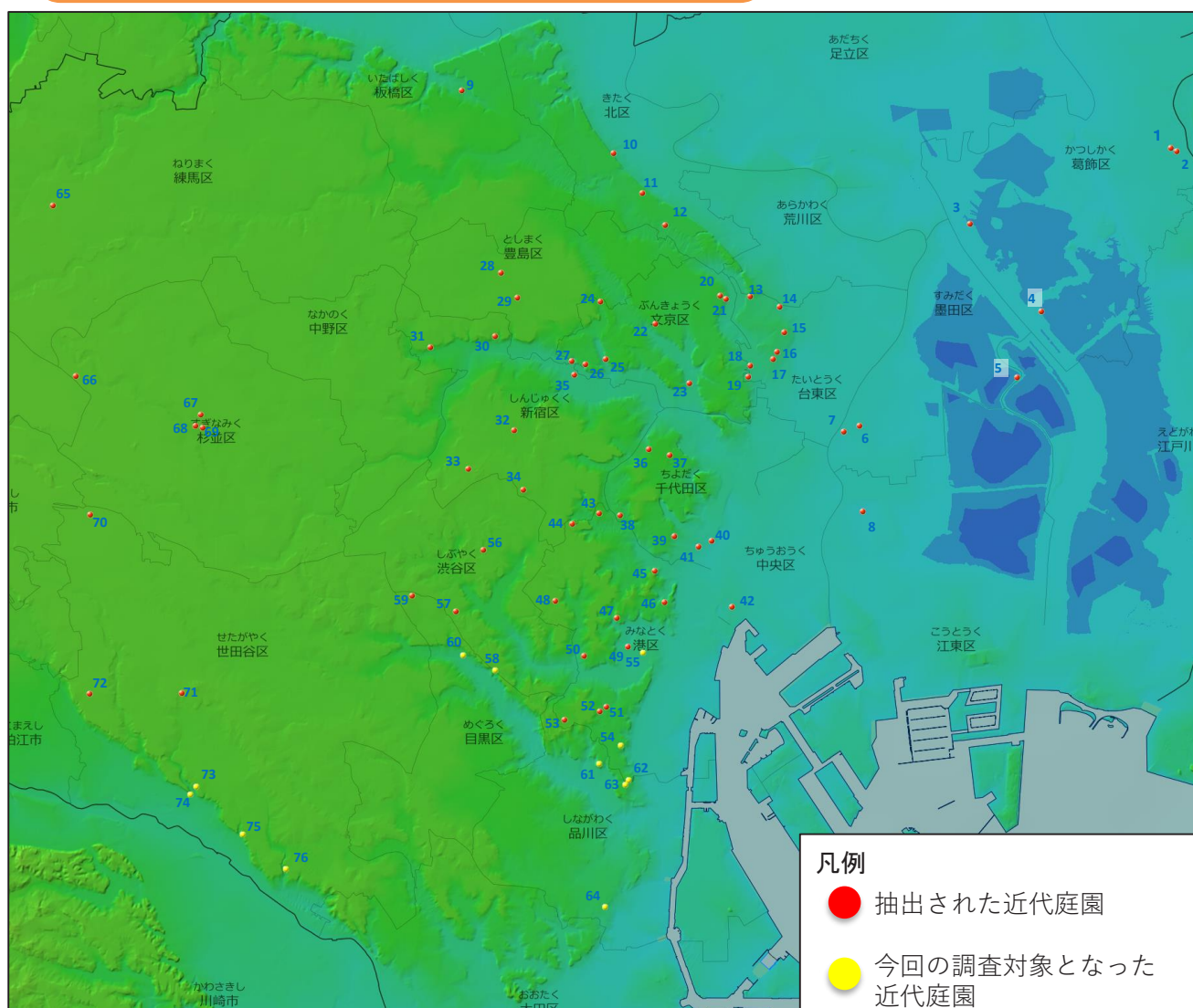
東京の近代庭園ってどこにあるの？	2
旧西郷従道邸庭園 (菅刈公園、西郷山公園)	4
旧朝倉虎治郎邸庭園 (旧朝倉家住宅庭園)	6
三井家別邸庭園 (綱町三井倶楽部庭園)	8
旧島津家本邸庭園 (清泉女子大学 奥庭)	10
旧高輪プリンスホテル日本庭園 (グランドプリンスホテル高輪)	12
旧岩崎家高輪本邸庭園 (三菱開東閣庭園)	14
旧原六郎邸庭園 (御殿山庭園)	16
旧安田善助邸庭園 (品川区立品川歴史館庭園)	18
旧小坂順造邸庭園 (世田谷区 瀬田四丁目旧小坂緑地)	20
静嘉堂文庫・玉川別邸庭園 (静嘉堂文庫美術館庭園)	22
旧五島慶太別邸庭園 (五島美術館庭園)	24
等々力溪谷公園・日本庭園	26
まとめ	28

東京の近代庭園って どこにあるの？



◆作成・文 小島周作
東京農業大学大学院造園学専攻 博士後期課程3年

東京都23区における現存する近代庭園分布図



※国土地理院・地理院地図の作図ツールより作成。
ベース図には、「色別標高図」と「白地図」を合成したものを使用。

分布図からみる東京都23区の近代庭園の特徴

東京都23区において現存する近代庭園を、下記に示す方法で抽出・集計したところ、全部で76庭園あることが判明した。

次に、各庭園をプロットした分布図より、立地の観点から、東京都23区の近代庭園の特徴について考察してみる。

まず、各庭園の所在地から、おおまかに次の3つに区分することができよう。1つ目は、分布図の東側、東部低地帯に位置する庭園である。2つ目と3つ目は、共に武蔵野台地に位置する庭園であるが、前者は山手線内側または外縁部に位置しているのに対し、後者は杉並区や世田谷区など、西側に位置している庭園である。

ここで、2つ目と3つ目の庭園群についてより詳しくみると、1つの特徴が浮かび上がってきた。それは、半数以上の庭園が、台地の縁辺部分に立地しているという点である。

例えば、北区の上野台の突端部分には、旧渋沢庭園（番号：11）や旧古河庭園（番号：12）が立地し、神田川沿いの目白台には、椿山荘庭園（番号：26）や肥後細川庭園（番号：27）などが立地している。

このように、台地の縁辺部分に立地している庭園が多いことが、東京の近代庭園が「台地主義」や「高台志向」といわれる所以である。

しかし、ここでいくつかの疑問が生じる。

「何故縁辺部分に位置する庭園が多いのか？」
「これらの庭園に共通するデザイン的特徴は何か？」 etc...。

そこで、以上の疑問を解き明かすべく、今回は目黒川北側の淀橋台と多摩川北側の国分寺崖線に位置している庭園（分布図の黄色で示した庭園）を中心に現地調査を行った。

東京都23区における現存する近代庭園リスト

番号	庭園名	所在区	番号	庭園名	所在区	番号	庭園名	所在区
1	山本邸庭園	葛飾区	27	肥後細川庭園	文京区	53	旧朝香宮邸庭園（東京都庭園美術館）	港区
2	題経寺達漢園		28	旧江戸川乱歩邸 (江戸川乱歩記念大衆文化研究センター)	豊島区	54	旧高輪プリンスホテル日本庭園 (グランドプリンスホテル高輪)	
3	堀切菖蒲園		29	自由学園明日館庭園	新宿区	55	三井家別邸庭園（綱町三井倶楽部庭園）	
4	外谷沙入庭園		30	旧相馬子爵邸庭園（おとめ山公園）		56	明治神宮御苑	渋谷区
5	旧小山家住宅庭園（立花大正民家園）	墨田区	31	旧林美実子邸庭園（林美実子記念館庭園）		57	旧錦島松濤公園	
6	横網町公園日本庭園		32	旧山野愛子邸庭園（がんこ新宿山野愛子邸）		58	旧朝倉虎治郎邸庭園（旧朝倉家住宅庭園）	
7	旧安田善次郎邸庭園（旧安田庭園）		33	京王プラザホテル庭園		59	旧前田侯爵家駒場本邸庭園（駒場公園）	目黒区
8	旧岩崎邸深川親睦園	江東区	34	新宿御苑	千代田区	60	旧西郷従道邸庭園（菅刈山公園、西郷山公園）	
9	前野原温泉さやの湯処庭園	板橋区	35	旧大隈重信邸庭園（大隈庭園）		61	旧島津家本邸庭園（清泉女子大学 庭園）	
10	旧垣内徳三郎邸庭園（名主の滝公園）	北区	36	靖国神社神池庭園		62	旧岩崎家高輪本邸庭園（三菱開業庭園）	品川区
11	旧渋沢家飛鳥山邸（旧渋沢庭園）		37	山県有朋邸庭園跡（三番町共用会議所）	中央区	63	旧原六郎邸庭園（御殿山庭園）	
12	旧古河虎之助邸庭園（旧古河庭園）		38	ホテルニューオータニ日本庭園		64	旧安田善助邸庭園（品川区立品川歴史館庭園）	
13	旧朝倉文夫氏庭園	台東区	39	国会前庭和式庭園		65	旧牧野富太郎邸庭園（牧野記念館庭園）	練馬区
14	旧中村不折邸（書道博物館）		40	日比谷公園心字池	港区	66	東京女子大学本館前庭	杉並区
15	東京国立博物館庭園		41	日比谷公園雲形池		67	太田黒元雄旧邸	
16	国立西洋美術館園地		42	浜離宮庭園延慶館前庭		68	近衛文麿旧邸	
17	日本芸術院会館庭園	文京区	43	赤坂迎賓館和風別館「游心亭」庭園	世田谷区	69	角川源義旧邸	世田谷区
18	横山大観旧宅及び庭園		44	明治記念館庭園		70	高源院庭園	
19	旧岩崎邸庭園		45	アメリカ大使館公邸		71	旧植村邸庭園（桜丘すみれば自然庭園）	
20	旧安田楠雄邸庭園		46	オランダ王国大使公邸		72	旧猪俣邸庭園（成城五丁目猪俣庭園）	
21	旧須藤邸庭園（須藤公園）	文京区	47	旧岩崎小彌太邸庭園（国際文化会館庭園）	世田谷区	73	旧小坂順造邸庭園 (世田谷区瀬田四丁目旧小坂緑地)	世田谷区
22	小石川植物園		48	旧根津嘉一郎邸庭園（根津美術館庭園）		74	静嘉堂文庫・玉川別邸庭園（静嘉堂文庫美術館庭園）	
23	旧岩崎家駒込別邸庭園（六義園）		49	福泉寺 四十八願の庭		75	旧五島慶太郎邸庭園（五島美術館庭園）	
24	旧鈴木信太郎邸庭園 (鈴木信太郎記念館庭園)		50	ドイツ連邦共和国大使館庭園		76	等々力溪谷公園・日本庭園	
25	旧鳩山一郎邸庭園（鳩山会館庭園）	文京区	51	旧藤山雷太邸庭園（シェラトン都東京）	世田谷区			世田谷区
26	椿山荘庭園		52	旧久原房之介邸庭園（八芳園）				

※番号は分布図の番号と対応

※黄色着色庭園は今回の調査対象庭園

＜近代庭園の抽出方法＞ 調査対象範囲：東京都23区

・「近代庭園」の定義：「1868年（明治元年）～1975年（昭和50年）に作庭された庭園」

※公園の中に営まれた庭園も対象。一方で、現存しない庭園は対象外とした。

・各区に担当者を割り振った上で、地図・航空写真を判読して該当する庭園を抽出し、地図にプロットした。

旧西郷従道邸庭園 (菅刈公園・西郷山公園)



◆作成・岡田 梢
東京農業大学造園科学科3年

様式：回遊式庭園(現在は池の大半が消失)
場所：〒153-0042 東京都目黒区青葉台2丁目12-13
アクセス：渋谷駅よりバスで、大坂上から徒歩6分

庭園の概要

洋館・書院造りの和館などを配置した回遊式の庭園は、東京一の名庭園であり、名士が訪れることも多い庭園だ。特に、従道が海軍大臣であった明治22年には、明治天皇の行幸や、皇后・皇太后の行啓があった。天皇は、庭園での大相撲や薩摩踊りを、また皇后は当時従道が後援していた養蚕技術の改良成果の展示を熱心に観覧した。邸内には、養蚕所のほか農園・果樹園もあり、機織りやトマトソースの製造・缶詰加工も行われていた。

江戸時代は、「荒城の月」で知られる豊後(今の大分県)の岡(竹田)城主、中川修理大夫の抱屋敷であった。樹木がうっそうと茂り、池に三田用水から水を引くなど、林泉の美しさは近郊随一といわれていた。その後、2万坪に及ぶこの屋敷は、明治維新のとき征韓論を主張して破れ、下野した兄隆盛のために、従道が手に入れた。

そして、明治10年代(1877~1886)のはじめ東京上目黒の自邸内に木造総二階建銅板葺のこの洋館建てた。西郷従道は、明治初年から度々海外に視察に出掛け、国内では陸・海軍、農商務、内務等の大臣を歴任、維新政府の中枢に居た人物で、在日外交官との接触も多かった、そのため「西郷山」と呼ばれる程の広い敷地内に、和風の本館と少し隔てて本格的な洋館を接客の場として設けた。

現在は旧西郷従道住宅として復元され、昭和40年(1965)に国の重要文化財に指定された。



西郷山公園内平面図

庭園のみどころ：

高低差ある台地の上からの景色(特に晴れ日)は目黒区周辺を見渡すことができ、春はケヤキやサクラの新緑が美しく、斜面に植栽されているアジサイや台地上のサクラの花を楽しむことができ魅力的な庭園である。



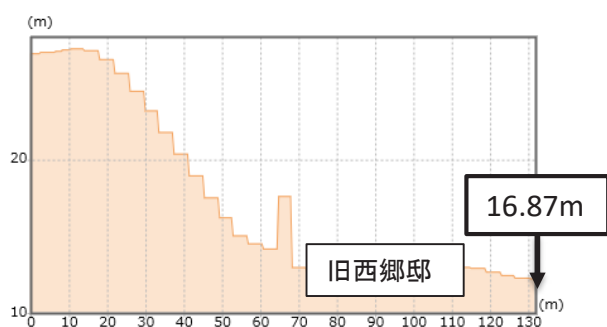
園路途中の滝

土地の履歴

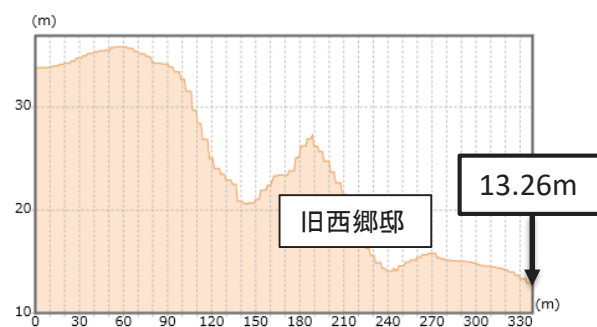
明暦4年（1658）江戸目黒村の御野屋敷を石川太兵衛より、豊後中川家に譲与されました。その後、明治7年（1874）西郷従道がこの地所を高島（高場沢か）より購入し、そこに明治13年（1880）フランス人建築家レスカスにより日本初の耐震建築の洋館が建造された。明治14年（1881）庭園西部の大池泉の改造がされ、明治19年（1886）九州より永田熊吉を呼寄せ、庭園を整備し直した。明治22年（1889）庭園東部の大芝生と西部の小池泉を改造、そして明治34年（1901）西郷家本邸となる。

明治35年（1902）西郷従道が死去。その後しばらくして、明治41年（1908）敷地の一部を菅刈小学校に寄贈されたが、昭和18年（1943）国鉄に売却され国鉄スワローズが合宿などに利用していた。昭和37年（1962）洋館が明治村に寄贈され、昭和56年（1981）目黒区が購入し、西郷山公園として開園した。現在は一部公園化され、都市公園として「西郷山公園」となっている。

旧西郷従道邸庭園の標高差



（北南縦標高）最高：27.24m
最低：12.44m 高低差：14.8m



（東西横標高）最高：35.82m
最低：13.26m 高低差：22.56m
建物は台地の下に建てられていた。

歴史図面や写真



現在の上空写真
Googleマップより



1954～1967（昭和29～42年）の地図
歴史的農業環境閲覧システム

参考資料：

進士 五十八（1997）：東京都目黒区・旧西郷従道邸庭園に関する造園生活史的研究：p. 389～p. 394

目黒区公式ホームページ：歴史を訪ねて西郷山の従道邸：

https://www.city.meguro.tokyo.jp/smph/gyosei/shokai_rekishi/konnamachi/michi/rekishi/hokubu/saigo.htm (2020.07.06)

旧朝倉虎治郎邸庭園 (旧朝倉家住宅庭園)



◆作成・文 森藤 未来
東京農業大学大学造園科学科 4年

様式：回遊式の書院庭園

場所：〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町29-20

アクセス：東急東横線「代官山駅」から徒歩5分、
東急トランセ「ヒルサイドテラス」から徒歩3分

観覧料：一般100円、小中学生50円

庭園の説明

歴史

旧朝倉家住宅は東京府議会議員であった朝倉寅次郎が自宅として大正8年（1919）に自宅として建設したものである。

朝倉寅次郎（1871年～1944）は精米業を営み、養父の跡を継ぎ渋谷区町会議員に選出、その後東京府会郡部会議長、同府会議長、渋谷区会議長等を歴任した。

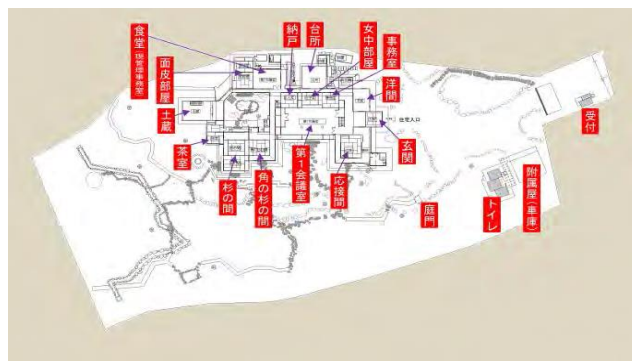
平成16年（2004）文部科学大臣は文化審議会の答申を受け、母屋・土蔵を重要文化財（建造物・建第2455号）に指定された。

庭園の全体構成

崖線地形を取り入れた回遊式庭園で石灯籠や添景物が多く配置される。

玄関前の前庭、敷地南側に広がる主庭、坪庭の中庭に大別される。主庭は、西渋谷台地の崖線部にあるため、斜面とその上部平地からなり、敷地外の眺望を借景として取り入れ、富士山や目黒川、田園風景が望めるような構成になっている。主屋からは、額縁に入った絵を見るような庭の景観が意識され、三田用水から引用して流れと小滝を配し、また各種の石灯籠や景石を多用するなど、この時代の作庭の特徴を示している。

三田用水から導かれた水路護岸や石組みは、伊豆産の玉石や根府川石で構成されている。



旧朝倉家住宅の庭園の平面図

渋谷区ホームページより引用

庭園のみどころ

地形に特徴があり崖線を取り入れた回遊式庭園となっており板張りの廊下のガラス越しから見事な庭園を眺めることができる。春にはツツジ、秋にはモミジが楽しめる。



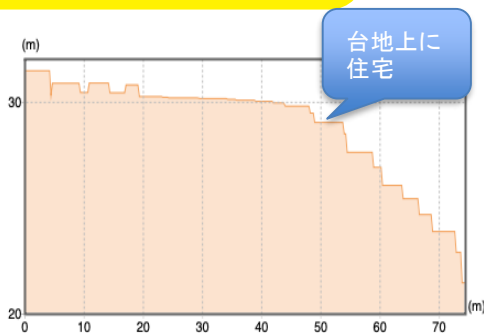
板張りの廊下から見た庭園

土地の履歴

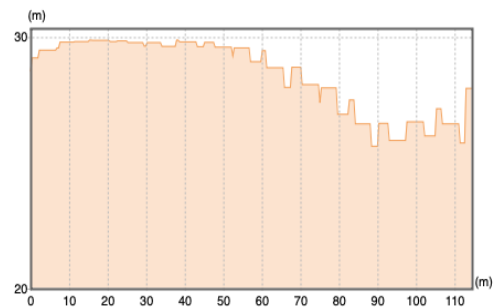
大正8年（1919）東京府議会議員の朝倉寅次郎が自宅として建設し昭和22年（1947）建物と南側の庭園を社会法人中央馬事会に売却する。その後昭和23年（1948）GHQによって社会法人中央馬事会が解散命令が出され、農林省に譲渡され農林大臣公邸として使用する。昭和32年（1957）旧経済企画庁（現在は内閣府）の前身である経済安定本部が、大蔵省の管理下にあった旧朝倉家住宅を借用し公邸として使用する。昭和39年（1964）名称を渋谷会議所に改称する。平成7年（1995）～平成12年（2000）経済企画庁により修理・補修工事が行われる。

平成16年（2004）文部科学大臣は、文化審議会の答申を受け、主屋・土蔵を重要文化財（建造物・建第2455号）に指定する。その後平成18年（2006）渋谷区が管理団体となる。

旧朝倉家住宅の標高差



（北南縦標高）最高：32.52m
最低：21.66m 高低差：10.86m
建物は台地の上に建てられている。



（東西横標高）最高：29.88m
最低：25.66m 高低差：4.22m

歴史図面や写真



1926（大正13年）の朝倉家住宅
後藤・安田記念東京都市研究所-市政専門図書館のデジタルアーカイブ 三田一万分之一地形図東京近傍13号



1936（昭和11年）空中写真
今昔マップ

参考資料：

1. 渋谷区ホームページ：<https://www.city.shibuya.tokyo.jp/shisetsu/bunka/asakura.html>（2020年7月5日）
2. 後藤・安田記念東京都市研究所-市政専門図書館のデジタルアーカイブ：<https://www.timr.or.jp/library/docs/mr11003-01-13.pdf>（2020年7月5日）
3. 今昔マップ on the web：
http://ktgis.net/kjmapw/kjmapw.html?lat=35.647532&lng=139.700925&zoom=15&dataset=tokyo50&age=0&screen=2&scrtilde=k_ort_RI_KU10&scr2tile=k_cj4&scr3tile=k_cj4&scr4tile=k_cj4&mapOpacity=10&overGSITile=no&altitudeOpacity=2（2020年7月5日）

三井家別邸庭園 (綱町三井倶楽部庭園)



◆作成・長谷川 侑哉
東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 4年

様式：ルネッサンス幾何学式庭園、池泉回遊式庭園（和洋設置式庭園）

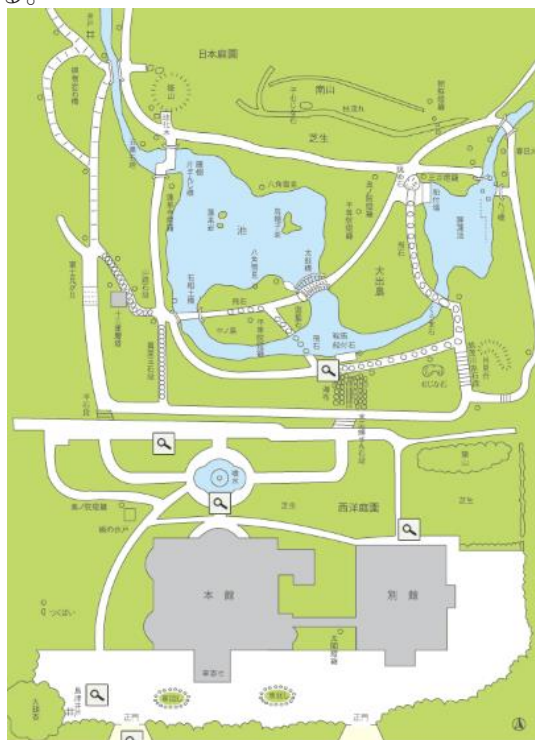
場所：〒108-0073 東京都港区三田 2-3-7

アクセス：地下鉄（東京メトロ南北線・都営大江戸線）…麻布十番（2番出口）徒歩8分
地下鉄（都営大江戸線）…赤羽橋（中之橋口、赤羽橋口）徒歩8分

庭園の歴史

東京都港区三田二丁目（旧芝三田綱町）に存在する建造物及び庭園で明治43年（1910）島津氏の日向佐土原藩の江戸藩邸跡（佐土原藩島津淡路守上屋敷跡地）に、三井総領家第10代当主三井八郎右衛門高棟がジョサイア・コンドルに設計を依頼し建築された。大正2年（1913）に三井家別邸（綱町三井倶楽部本館）が竣工され庭園が完成したのは本館の竣工から9年後の大正11年（1922）である。

江戸時代には諸藩が屋敷を構えていた場所であり、日本庭園部分は当時から名園とされていた会津藩松平家の広大な下屋敷跡を基礎としている。



庭園平面図（ホームページより引用）

庭園の様式

・西洋庭園

設計は本館と同じジョサイア・コンドルによるもの。噴水を中心に配した西洋庭園は幾何学式庭園で建物に対して左右対称に設計されている。その他、花卉型をした池や区画された芝生が美しく、都会とは思えない四季折々の風景を楽しむことができる。

・日本庭園

約6000坪の和風庭園は江戸時代から著名だった名園をベースに三井家先々代の発意指示により、藪内節庵設計、集花園柴田徳次郎の施工として大正4年（1915）から4ヶ月の年月を費やして改造されたものである。

池を中心とした回遊式庭園である。数ある石灯籠は奈良や京都地方の知名の神社、仏閣のものを模造し、景石・飛石・石橋・滝石、池のなぎさなどは鞍馬、貴船、加茂川、筑波、根府川産の自然石が使われており、重量数十トンに余る巨大な景石も随所に配置され、落ち着いた雰囲気の中にも迫力のある景観になっている。



ジョサイア・コンドル設計の本館と洋庭

庭園の見どころ

・園内の石灯籠

庭園内には様々な様式の石灯籠がいくつか設置されている。これらは京都の神社や仏閣にあるものを模造したもので、一つ一つ違った形をしている。また、園内の飛石や滝石、景石などは鞍馬、貴船、加茂川、筑波、根府川産の自然石が使われている。

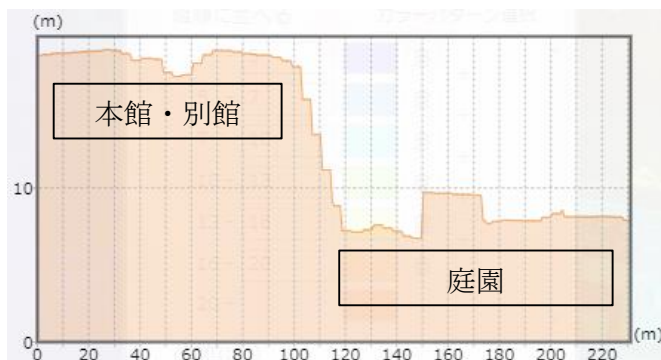


・ケヤキとタブノキ

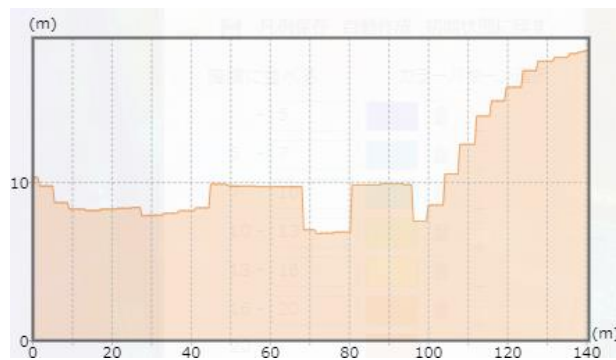
樹木は300種、1万数千本、目通し樹幹20cm以上のものが50本近くあり、一部は港区の保護樹になっている。その中でも推定年齢500年を超えるケヤキとタブノキの2本は縁結びの木として親しまれており、本館竣工100年を機に「相愛樹」と命名され、新たな人気スポットとなっている。



庭園の標高差・空中写真



(北南縦標高) 最高：18.87m
最低：7.24m 高低差：11.63m



(東西横標高) 最高：18.5m
最低：6.83m 高低差：11.67m



1936年頃 空中写真
出典：国土地理院地図から筆者作成



2017年4月 空中写真
出典：国土地理院地図から筆者作成

参考資料：

1. 綱町三井倶楽部TOPページ: <https://tsunamachimitsuiclub.co.jp/> (2020.06.29)
2. 綱町三井倶楽部本館竣工100周年記: <http://www.tsunamachimitsuiclub.co.jp/100th/sp/story08.html> (2020.06.29)

旧島津家本邸庭園 (清泉女子大学奥庭)



◆作成・文 中谷 夏巳
東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 3年

場所：〒141-8642 東京都品川区東五反田3丁目16-21
清泉女子大学本館に接する奥庭。
アクセス：五反田駅より徒歩10分、品川駅より徒歩15分

庭園の説明

歴史：本庭園がある高台は古くから「袖ヶ崎」と呼ばれ、ツツジで有名な景勝地として知られていた。江戸時代には仙台伊達藩の下屋敷として約130年間使用され、明治6年頃に島津家の所有となる。その後、西洋館建設がジョサイア・コンドルによって設計され、1917年に落成。落成披露として大正天皇・皇后も行幸啓された。その後、戦争などの影響を受け、現在は清泉女子大学本館・奥庭として利用される。2012年には旧島津公爵家袖ヶ崎邸洋館（清泉女子大本館）として建築物は都指定の有形文化財に指定される

庭園説明：洋館南側、すべて台地上で展開されている。芝庭が広がり、仙台伊達藩下屋敷時代からあると考えられている樹齢約200年のフウノキがどっしりと佇む。その後方にはクリシマツツジが群生している。北南断面図を確認すると、台地端部に行くにつれ、地面が約2.4m高くなっている。その上部には明治・大正両陛下がクリシマツツジを眺めるために使用した四阿跡が残る。その他、園内には石灯籠や庭石が置かれ、和の要素も感じられる。また、清泉女子大学が所有してから、白いキリスト像が設置され、建学の精神であるキリスト教のヒューマニズムを表現している。

現在の庭園が整備された時期ははっきりしていないが、落成前後に整備されたと推定される。1936年頃の航空写真では、すでに整備されている。ジョサイア・コンドルが手掛けた他の邸宅をみると建物建設と同時期に庭園も整備されている例がある。本庭園も明治中期以降の庭園様式に共通する芝庭を持つ。また、明治初期の和

館時には池が存在したが、現在の庭園には確認できないことから、結論に至った。

周辺環境：江戸・明治期頃、台地下の低地には水田が広がっていた。そのため、台地上からは富士山や海を隔てて房総の山々を眺望することができたという。明治期には、仙台藩の敷地上に徒刑場が置かれたとのことだが、敷地が広いので、台地上にあったかは不明。大正期になると、宅地開発が行われ、現在も住宅が広がっている。



(清泉女子大学内平面図)

庭園のみどころ

- 四季折々のフウノキの姿。
- 3～4月はクリシマツツジ、サクラを楽しめる。
- ジョサイア・コンドルが設計した洋館。

土地の履歴

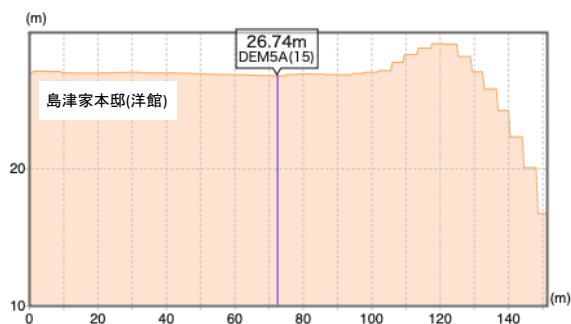
元文2年(1737)、仙台伊達藩5代藩主の伊達吉村の時に付近の約16000坪に及ぶ土地を手に入れ、下屋敷(当時は大崎屋敷といった)とした。その後、寛保3年(1743)に続き地の約6000坪を得て、そこに本庭園の敷地が含まれる。

明治6年(1873)に島津家の所有となる。当初は和館を建設したが老朽化したことから、明治39年(1906)にジョサイア・コンドルに洋館の設計を依頼。大正4年(1915)竣工し、大正6年(1917)に落成した。昭和4年(1929)には金融恐慌の影響を島津公爵家も受け、中心部の8000坪を残し、所有地の約20000坪を売却。昭和19年

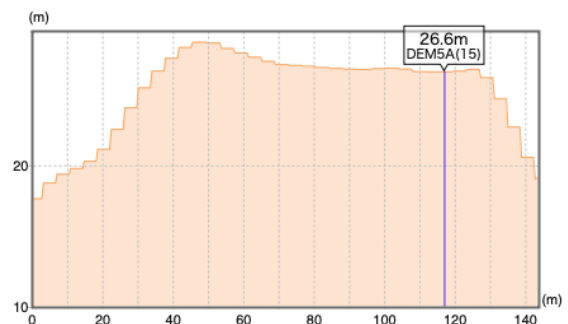
(1944)には第二次世界大戦で邸宅の維持が困難となり、残りの土地も日本銀行に売却することになってしまう。

その後終戦し、戦災を免れた邸宅は昭和21年(1946)にGHQに接収され、将校クラブとして利用される。昭和29年(1954)GHQによる接収が解除され、再び日本銀行の所有となる。昭和37年(1961)に清泉女子大学が邸宅を購入し、昭和38年(1962)には邸宅を校舎とし使用し始め、現在に至る。

清泉女子大学 奥庭内標高差



(北南縦標高) 最高：29.09m
最低：26.74m 高低差：2.35m



(東西横標高) 最高：28.32m
最低：26.6m 高低差：1.72m

歴史図面や写真



1916-1921(大正5-10年)の島津家本邸
1 万分 1 地形図



1963(昭和38年)空中写真
地理院地図

参考資料：

1. 仙台藩大崎袖ヶ崎邸の終焉、そしてへ島津家へ：孤塚 裕子，清泉文苑32号，48-55
2. もう一つの島津家公爵家袖ヶ崎本邸-まぼろしの和館-：孤塚 裕子，2016，清泉文苑33号，35-43
3. 清泉女子大学ホームページ：https://www.seisen-u.ac.jp/shimadzu/index.php(アクセス日：2020年4月29日)
4. 品川区ホームページ：https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/sangyo/sangyo-bunkazai/sangyo-bunkazai-rekisisanpo/sangyo-bunkazai-rekisisanpo-daimyoyashiki/hpg000006652.html(アクセス日：2020年4月29日)

旧高輪プリンスホテル日本庭園

(グランドプリンスホテル高輪)



◆作成・文 古屋 僚大
東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 3年

様式：池泉回遊式の和風庭園

場所：〒108-8612 東京都港区高輪 3-13-1

アクセス：JR東海道新幹線 品川駅より徒歩6分、都営浅草線 高輪台駅より徒歩12分

庭園の説明

こちらの庭園は品川駅西側にある「グランドプリンスホテル高輪」「グランドプリンスホテル新高輪」の中庭にある日本庭園である。この庭園は高輪プリンスホテル新館の新築に伴い、昭和46年（1971）に造られた比較的新しいもので作庭者は皇居新宮殿なども手掛けた楠岡悌二によるものである。庭園は20,397㎡もの広さがあり、17種類の桜をはじめ、四季折々に美しく優雅な表情を見せる草花や、色鮮やかな錦鯉が泳ぐ池などがある。

庭園の建築物

山門・青銅灯籠・・・青銅灯籠は江戸時代の徳川将軍家の霊の地（現 東京プリンスホテル）から移築されたものである。

鐘楼・・・明暦2年（1656）建立。昭和34年（1959）に奈良県奈良市の念仏寺より移築されたものである。

観音堂・・・長弓寺から移築された三重塔の一部。安置されている「十一面観音踏下像」は室町時代（15世紀前後）に作られたものである。

村野藤吾作「茶寮 恵庵」

迎賓館本館（旧赤坂離宮）の改修、貴賓館の改修やグランドプリンスホテル新高輪の設計を手がけた昭和の名建築家、村野藤吾が昭和60年（1985）に設計したお茶室。グランドプリンスホテル高輪、新高輪との間の高低差をうまく利用して、暗く、こんもりとした森を意識されており、その森の中に江戸初期頃と思わせる数寄屋建築がある。また、昭和57年（1982）にグランドプリンスホテル新高輪のロビー棟屋上に造られた「秀明」和室棟も村野藤吾が設計したお茶室である。



グランドプリンスホテル高輪の庭園平面図

庭園のみどころ

昭和の名建築家、村野藤吾が設計したお茶室 茶寮 恵庵や片山東熊が明治44年（1911）に設計した旧竹田宮邸が昭和47年（1972）に村野藤吾によって改修・復元され、現在はグランドプリンスホテル高輪の貴賓館）と名のある建築物が存在する。

また冬場の日本庭園や貴賓館のライトアップ、春には17種類の桜が楽しめる。



「茶寮 恵庵」

土地の履歴

明治44年(1911) 後藤象二郎邸宅跡に竹田宮邸が、大正2年(1913) に北白川宮邸ができる。その後、西武鉄道が竹田宮邸、北白川宮邸買収し、高輪プリンスホテルを開業する。

昭和29年(1954) 旧大和長弓寺三重塔初層(鎌倉時代中期〈弘安8年(1285年)頃〉の建築)、鐘楼、山門が高輪プリンスホテルに移築される。

昭和46年(1971) 高輪プリンスホテル新館が開業するとともに高輪プリンスホテル日本庭園(グランドプリンスホテル高輪日本庭園)が作庭される。

昭和47年(1972)、高輪プリンスホテル旧館(1911年築旧竹田宮邸)が改修・復元される。(設

計: 村野藤吾、竹田宮邸洋館→貴賓館) 昭和57年(1982)には新高輪プリンスホテルが開業する。(北白川宮邸跡→新高輪プリンスホテル)

昭和60年(1985) 新高輪プリンスホテル「茶寮 恵庵」(設計: 村野藤吾)が開業する。

平成19年(2007)、高輪プリンスホテルがグランドプリンスホテル高輪に、新高輪プリンスホテルがグランドプリンスホテル新高輪に改称される。

御殿山庭園の標高差



(北南縦標高) 最高: 26.50m
最低: 16.14m 高低差: 10.36m



(東西横標高) 最高: 28.71m
最低: 9.49m 高低差: 19.22m

歴史図面や写真



明治42年(1909)の竹田宮邸、北白川宮邸
時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」



平成30年(2018)の空中写真
地図・空中写真閲覧サービス

参考資料:

1. 日本庭園 グランドプリンスホテル新高輪: [www.princehotels.co.jp > facility > japanese-garden](http://www.princehotels.co.jp/facility/japanese-garden) (2020. 06. 08)
2. グランドプリンスホテル高輪庭園 (旧竹田宮邸) - おばさん達の東京散歩: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~pipichan/details1670.html> (2020. 06. 08)
3. 高輪プリンス地区 - 無料ホームページのレンタル ナスカ: <http://web2.nazca.co.jp/dfg236rt/page046.html> (2020. 06. 08)
4. 東京都港区 旧竹田宮邸 - JAPAN-GEOGRAPHIC.tv: [japan-geographic.tv > takanawa-kyu-takedamiyatei](http://japan-geographic.tv/takanawa-kyu-takedamiyatei) (2020. 06. 08)
5. 村野藤吾1986) : 村野藤吾 和風建築作品詳細図集・2 ホテルの和風建築編: 建築資料研究社

旧岩崎家高輪本邸庭園 (三菱開東閣庭園)



◆作成・文 平野柚葉
東京農産大学造園科学科3年

様式：和洋併置式庭園

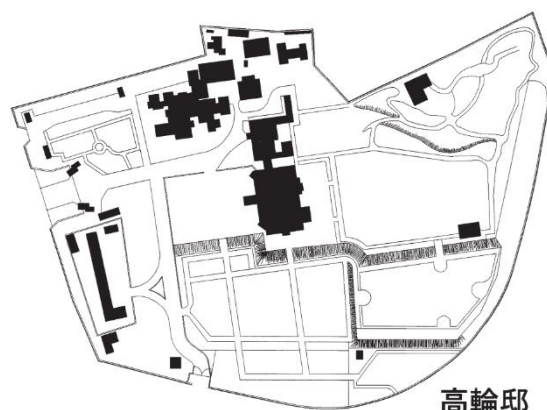
場所：〒108 - 0074 東京都港区高輪4丁目25番33号

JR・京急品川駅から徒歩15分、JR・東急・都営地下鉄五反田駅から徒歩18分

庭園の説明

開東閣のある高輪台地東端の土地は、明治22年（1889）に岩崎久彌（3代目三菱社長）が、伊藤博文（初代首相）から買い受けたもので、明治33年（1900）に久彌から叔父の岩崎彌之助（二代目）譲り渡された。彌之助は駿河台の本邸から和風邸宅と釈迦堂を移築したほか、ジョサイア・コンドル設計の元、現在の洋館を新築した。洋館は明治41年（1908年）に完成し、庭園は洋館施工から2～3年後に完成したとされる。彌之助はここで晩年をすごしたが、洋館の完成前に没している。庭園はコンドルの他、福羽逸人や林修己の設計によってつくられ、和風庭園部分が崖の下に配置されている和洋併置式庭園になっている。昭和13年（1938）になると、彌之助の息子の小彌太（4代目三菱社長）が三菱の賓客の接待と交友の場として利用し始めた。その後、太平洋戦争の戦災により内部の大部分を焼失してしまったが、外観は原型をとどめたまま、修復が行われた。現在は、三菱系29社（三菱金曜会）で開東閣委員会を設け、施設の維持管理にあたっており、一般客にはGWに開催される藤見の会でしか公開されていない。

敷地面積は約11200坪（南北約170m 東西約260m）で、周りは高さ4～5mほどの石垣に囲まれており、木が生い茂っているため外から庭園や洋館の様子を見ることはできない。



高輪邸

旧岩崎家高輪本邸庭園平面図

出典：栗野隆（2005）：明治期東京の近代邸宅空間における洋風庭園の様式と空間，p 384

敷地内には洋館の他、バラ園や藤棚、茶室、日本庭園、1500坪の芝庭があり左右対称的なつくりになっている。古い資料を見ると完成当時は日本庭園の側に池があった事が読み取れるが、現在は残っていない。

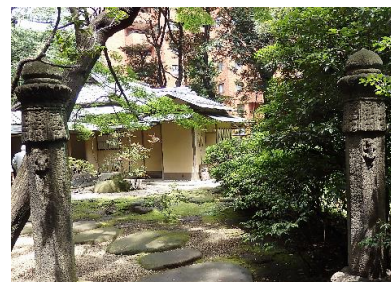
開東閣の名前は、前漢時代の歴史を記した「漢書」の「公孫弘伝」の中の一節「於是起客館、開東閣以延賢人」（ここに於いて客館を起し、東閣を開き、以て賢人を延く（ひく））に由来しているとされる。



開東閣正門



バラ園から見える洋館



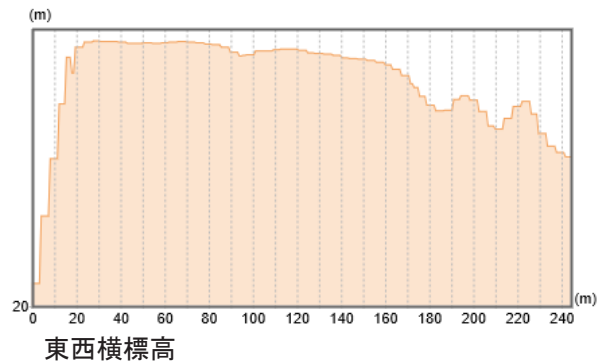
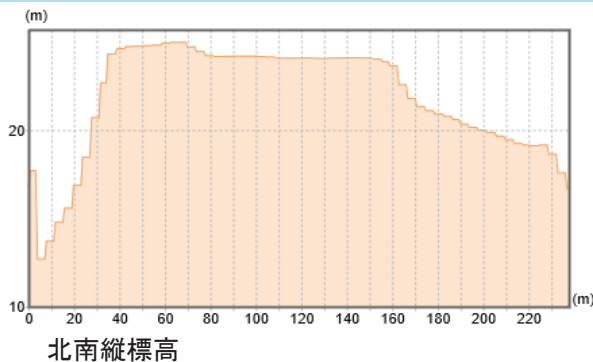
茶室入口

土地の履歴

庭園のみどころ：旧岩崎庭園と同じく、ジョサイア・コンドルが手掛けた重厚感のある洋館を中心に、和館を別棟としてもうけた和洋併置式邸宅が特徴である。洋館の正面には、直線園路を取り入れた手入れの行き届いた広大な芝庭が広がっている。戦前は2000株あったとされるバラ園からは色とりどりのバラに囲まれた洋館の姿を眺めることができる。藤棚は樹齢400年の「野田藤」が160坪ほどに広がっていて、四月下旬から五月頃に見ごろとなり、毎年GWに「藤見の会」が開催されている。

元々は江戸時代から徳川家康公の鷹狩りや接待に使用されていた御殿があった場所で、御殿山と呼ばれ品川の海が一望できる桜の名所であった。3代目三菱社長である岩崎久彌が明治22年に伊藤博文の邸宅地16,500坪を10万円で購入した。その後明治33年に2代目三菱社長の彌之助が譲り受け、駿河台の本邸から和風邸宅と釈迦堂を移築した。明治41年にはジョサイア・コンドル設計の洋館が完成したが、太平洋戦争で外観を残し内部がほとんど焼失してしまった。修復作業のち現在は三菱グループの接待場として利用、保存されている。

旧岩崎家高輪本邸庭園の標高差



標高は最小地点9.7m、最大地点24.2mで標高差は14.5mであるが、庭園の北東部の端が低くなっている以外は高台の平地に位置している。

歴史図面や写真



すぐ横に東海道が通っていて、周辺是水田が多かったほか、北白川邸や竹田宮邸など皇族の住居とも隣接していた。
明治期迅速測図 今昔マップより引用



現在は第一京浜、東海道新幹線が横を通っている。
地理院地図より引用

参考資料：

1. 栗野隆(2005)：明治期東京の近代邸宅空間における洋風庭園の様式と空間, p p 381－384
2. 栗野隆(2006)：東京を中心とした近代の日本庭園：日本庭園学会誌14・15, p p 7－14
3. 御殿山から始まる歴史散策 ～ 御殿山今昔物語 ～ 第二回 「開東閣」
<https://www.jtp.co.jp/techport/2016-02-24-002/> (最終閲覧日2020年7月3日)

旧原六郎邸庭園

(御殿山庭園)



◆作成・文 呉 京樺
東京農業大学大学院造園学専攻 博士前期課程1年

様式：和風庭園(池庭)

場所：〒140-0001 東京都品川区北品川4丁目7

JR品川駅の南に位置する御殿山トラストシティ内にある庭園。

アクセス：品川駅高輪口より徒歩10分、京急本線北品川駅より徒歩5分

庭園の概要

江戸時代の名所として御殿山城は「品川の御殿山」と呼ばれ、歴代将軍鷹狩りの休息所、また幕府重臣を招いての茶会の場として利用されていたほか、桜の名所として有名であった。

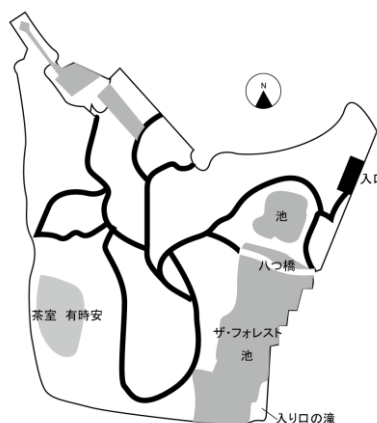
御殿山庭園の園内には、かなりの高低差があり、それは幕末嘉永6年(1853)のペリー来航(黒船来航)事件以降、「御台場」を作る国防のための台場建設用土砂採取場となった。旧原家庭園の大きな高低差は御殿山が土取場であったことの痕跡である。

原美術館、御殿山トラストシティ、品川教会にわたる敷地は、明治25年(1892)以来、原家の邸宅の土地だった。原美術館および御殿山トラストシティ、品川教会を含めた敷地は、原邦造の父であり、明治期の大実業家、原六郎の大邸宅の地であった。原六郎は天保13年から昭和8年(1842～1933)日本の幕末から大正期の志士、軍人、銀行家、実業家である。

原邸の敷地に、御殿山トラストシティが完成したのは平成2年(1990)であった。御殿山トラストシティの建設計画が完成した当時、原邸の広大な緑がなくなるのではないかと、という心配が周辺住民に広がったが、結局、原邸の庭は、「御殿山庭園」という形で維持された。そして、現在再た都市開発の名で高層住宅・業務ビル化計画されていることがあり、庭園の周りは建物で囲まれている。

御殿山庭園は、山ではなく台地である。品川駅から向かってくると、だんだん高くなった実感することができる。幕末期(1853)には、土砂採取場となり、庭園の北側がえぐられ、窪地となった。

(窪地は池になり、10m以上の高低差がある)



旧原家庭園の園内平面図

庭園のみどころ

御殿山庭園は地形特色のある庭園(高低差ある池泉回遊式庭園)、そして世界的建築家・磯崎新の設計による茶室「有時庵」がある。また、春の季節には桜まつりや夜桜のライトアップがある。

植物の見どころは、春にはウメやサクラ、初夏にはアジサイやナシの花、秋にはモミジやイチョウの紅葉、冬にはカンツバキが楽しめる。中でも、3-5月にシロバナタンポポが人気である。



庭園の高低差が見える、滝の上からの写真

土地の履歴

寛永13年（1636）に品川御殿と呼ばれる将軍の館が建てられた。この品川御殿は将軍の鷹狩りの際の休憩所とされている。その後、八代将軍徳川吉宗の時代になると、北区にある飛鳥山とともに桜の植林が進められた御殿山は花見の名所となり、江戸庶民の行楽の地として親しまれるエリアとなった。

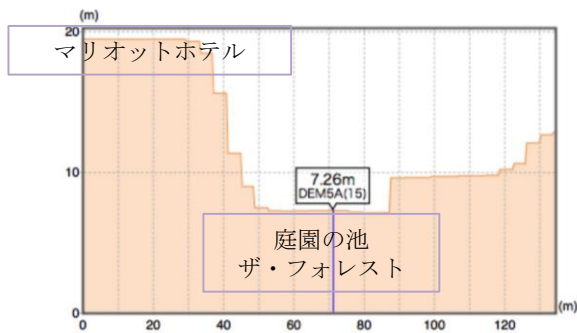
幕末期(1853)には、国防のための台場建設用土砂採取場となり、庭園の北側がえぐられ、窪地となった。明治5年（1872）には品川に鉄道が開通し、御殿山は東西に二分割されることとなってしまった。

明治25年（1892）明治期の大実業家であった原六郎の大邸宅となった。六郎は西郷隆盛の弟・西郷従道（じゅうどう）からこの土地を明治25年に譲り受けた。

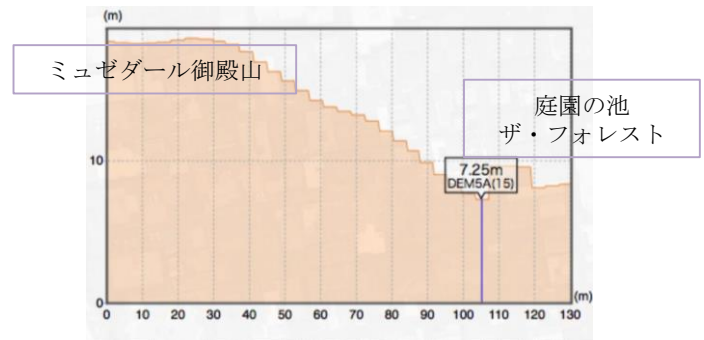
昭和8年（1933）邦造が六郎からこの土地を引き継いだ。昭和13年（1938年）はレ字形の建物を建設（現在の原美術館）。

昭和20年（1945）米軍将校の宿舎として使用され、当時はHara Houseと呼ばれていた。昭和26年（1951）のサンフランシスコ講和条約締結後に、外務省公館として使用した。その後10年ほど、空き家の期間となった。また昭和54年（1979）原美術館として再生することになった。

御殿山庭園の標高差

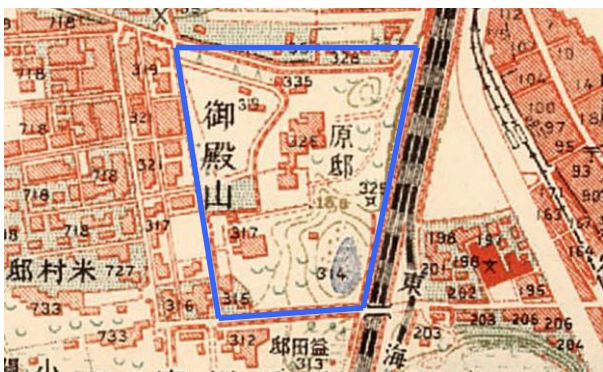


（北南縦標高）最高：19.45m
最低：7.26m 高低差：12.25m



（東西横標高）最高：18.45m
最低：7.25m 高低差：11.2m
建物は台地の上に建てられています。

歴史図面や写真



大正13年(1926)の御殿山

後藤・安田記念東京都市研究所・市政専門図書館のデジタルアーカイブ



1947(昭和22年)空中写真

地図・空中写真閲覧サービス

参考資料：

- 進士五十八（1987）：品川，御殿山の生活史的研究：造園雑誌50（5），24-29
- JTP日本サード・パーティー：<https://www.jtp.co.jp/techport/2017-03-22-001/>（アクセス2020.06.12）
- 品川歴史館：<https://www.trustcity-g.com/1374>（アクセス：2020.06.12）

旧安田善助邸庭園 (品川区立品川歴史館庭園)



◆作成・文 吉村 悠

筑波大学大学院人間総合科学研究科世界遺産専攻2年

様式 : 露地・鑑賞式庭園

場所 : 〒140-0014 東京都品川区大井6丁目1 1-1

JR大森駅北口より徒歩10分

入館料: 一般100(80)円 小中学生50(40)円

※品川区立・区内在住の小中学生、
70歳以上の方、障害のある方は無料
※カッコ内は、20名以上の団体料金
※特別展開催時は別料金

庭園の歴史

品川区品川歴史館は、武蔵野台地上に位置しJR大井町駅とJR大森駅の間ほど東京都品川区大井6丁目に昭和60年（1985）に開館した。この地は昭和初期に財閥関係者の安田善助の邸宅が構えられた。安田善助邸は昭和41年に日本電報通信社（現：電通）の代表取締役社長吉田秀雄に所有が変わり、吉田秀雄記念館として昭和58年（1983）まで運営された。その後事務局と吉田秀雄記念図書館が銀座に移転することから、昭和53年（1978）に品川区に譲渡された。発掘調査が行われた後、品川区立品川歴史館に姿を変え郷土資料の保存と活用、区民文化の向上を目的に昭和60年（1985）に開館し現在に至る。

書院は昭和初期に移築されたものであり庭園の作庭者は不明である。昭和58年（1983）に遺跡調査が実施されたことで、庭園の骨格となる地割が改変されている箇所も見受けられるが、庭園の大部分は当初の姿を維持している。発掘調査中に敷地内から水琴窟が発見され、現在も音を楽しむことができる。また品川区立品川歴史館の書院は、明治初期に建造された安田善助邸の建築部材を出来る限り再利用し、復元されている。故に品川区立品川歴史館の建造物と庭園は改変されている箇所も見受けられるが、元来の庭園の意匠を踏襲し存続している。

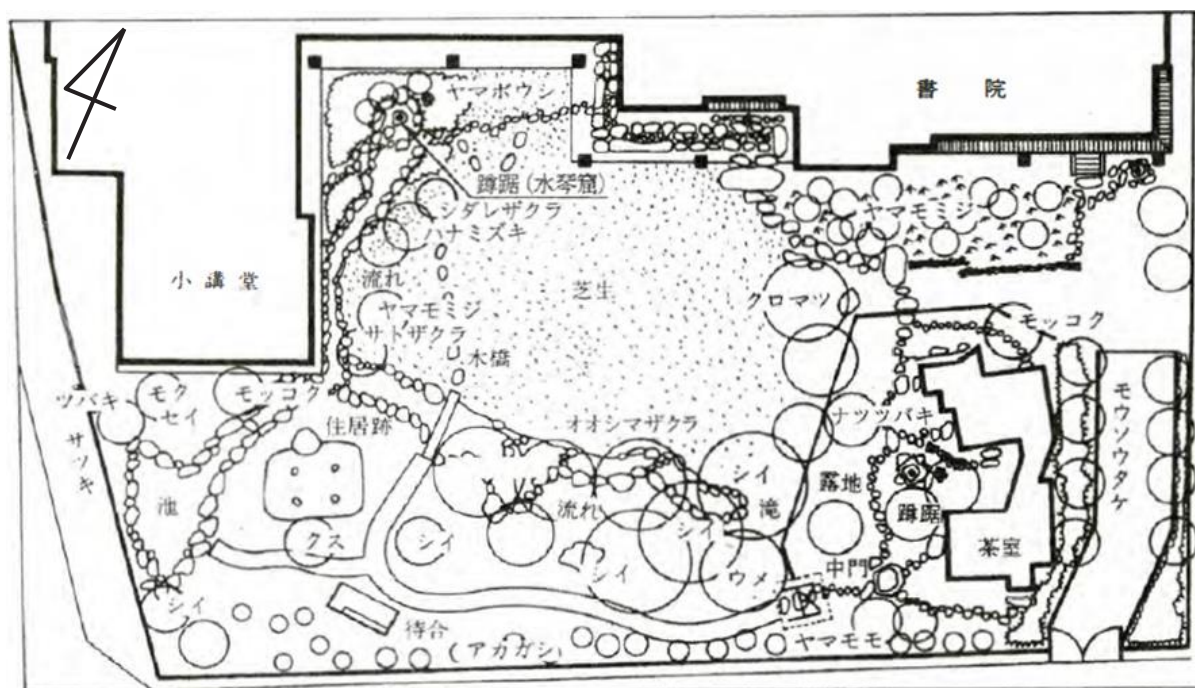


図 品川区立品川歴史館平面図より筆者一部加筆

地割と様式

旧安田善助邸庭園は、台地上に建てられた書院と庭園がある。敷地内での高低差は、最大標高16.4m最低標高15.0mであり比高差1.4mである。この庭園の敷地全体は台地の縁辺部に位置しているが、台地の斜面を利用した庭園ではない。

庭園の様式は、露地と小講堂や書院から庭園の全景を見る鑑賞式庭園である。庭園内には松滴庵という昭和初期に安田善助氏によって建造された茶室が敷地内東側に位置し、茶室に伴い中門・待合・蹲踞等も南側に位置している。品川区立品川歴史館平面図を見ると、芝が敷かれた中央部の開けた空間と、露地を構成する南側空間との大きく2つのエリアに分かれる。この2つの空間は流れによって区分される。芝側（北側）は書院から南奥にかけて芝が広がる。南側の露地の濃淡を見せるため、高木類は無く流れ周辺に水生植物のみ植栽されている。芝と流れの間にはコケが敷かれており、オープンな芝のエリアから内的な露地の空間性の調和を図っているように見える。

露地はモッコクやシイ、ツバキ等が密に植栽されている。園路南側の堀に接触された樹木の下に園路を設け、流れ側には中低木が植栽される。露地は密に樹木が植栽されることで市中の山居のように感じることが出来る。

2つの空間では、それぞれ蹲踞が配されており、露地の一部を構成する蹲踞と、流れの一部を構成する蹲踞がある。露地では抹茶、書院では煎茶が楽しんでいたのではないかと推測する。

見どころ

小講堂東側の蹲踞には水琴窟がある。現在流れは機能していないが、手水鉢の水を柄杓で漉く、水琴窟に少量の水を流すことで音を楽しむことができる。

また品川区保護樹のオオシマザクラは、伸びやかでいて雄大な枝ぶりが特徴的で庭園全体から楽しむことができる。



写真 オオシマザクラと流れ



写真 書院前蹲踞と水琴窟

品川歴史館位置関係図

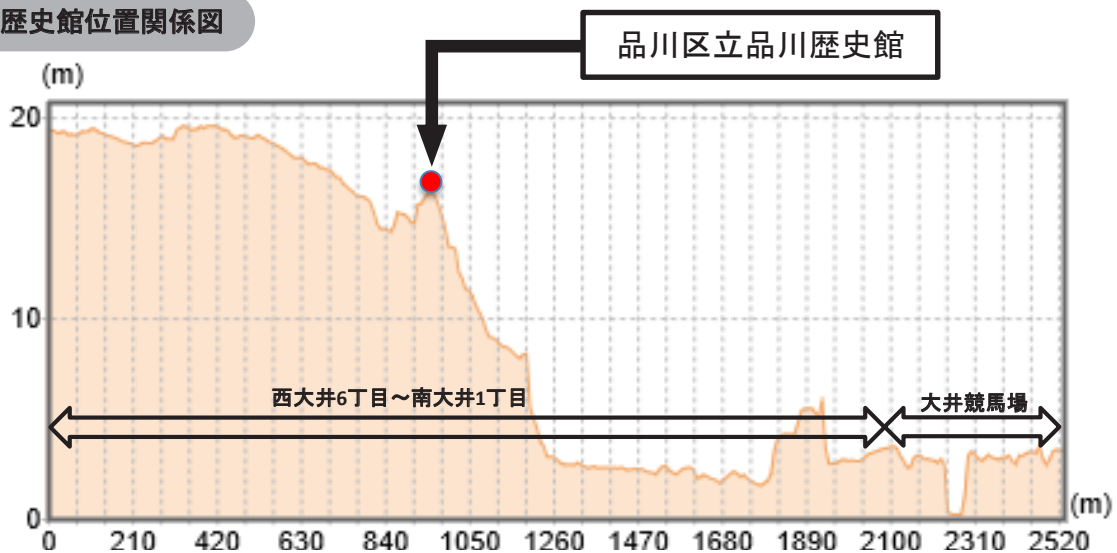


図 西大井6丁目～大井競馬場断面図

脚注

¹品川歴史館解説シート

<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyo/06/historyhp/pdf/pub/kaisetsu/cs031.pdf> アクセス2020/07/07

参考文献

しながわWEB写真館 旧吉田邸跡で歴史館建設中に遺跡発見 4

<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/photo/?id=pv&pn=1283> アクセス2020/07/07

公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 | 財団の概要 | 財団の歴史昭和53年 <http://www.yhmf.jp/outline/history.html> アクセス2020/04/28

旧小坂順造邸庭園

(世田谷区立 瀬田 4 丁目旧小坂緑地)



◆作成・文 井上 琴海
東京農業大学地域環境科学部造園科学科 3年

様式：自然主義庭園

場所：〒158-0095 東京都世田谷区瀬田4丁目4-21

アクセス：東急田園都市線用賀駅、二子玉川駅より徒歩約20分

二子玉川駅より路線バス「静嘉堂文庫」バス亭下車後すぐ

庭園の概要

実業家・政治家であった小坂順造（1881～1960）の別邸として昭和12年（1937）に建てられた。明治になると都心に近く環境がいい上野毛・瀬田周辺には財政会の要人の別邸が多く建てられたが、小坂緑地はそのうち現存する唯一のものである。

小坂家時代は数千平方メートル（現在は約950平方メートル）、およそ300坪ある国分寺崖線の緑辺部にあたる敷地であり、敷地の半分以上は崖下の湧水と湿地になっている。斜面にはつづらの道があり、湧水が作り出す湿地帯には木製の歩道が設置されている。

湧水は、園内中央部の崖線面の地層から湧き出ており、かつて横山大観が住んだ数寄屋跡地の脇を流れ、庚申塔前を経て池に注いでいる。

敷地は北側が狭く南側が広いL字型を呈し、ほぼ中央を国分寺崖線が通っているため、建築に適した土地は東寄りの南北に細長い台地上の部分のみである。

敷地北端には道路に面して表門を開き、崖下の敷地南西端に裏門があり、表門から南へのアプローチを進むと、敷地の東寄りに主屋が立ち、主屋の手前西寄りには中門と塀がある。

かつては表門付近に管理人住居、車庫、運転手控室などがあったが、これらは平成8年（1996）に撤去されている。他に敷地内の国分寺崖線下に設けられていた茶室があったが、区が寄贈を受ける前に取り壊されている。

玄関部分は、特に古民家風な意匠をとっており、大正から昭和前期にかけて流行した、民家風和風住宅を意識的に取り入れているが、その先の居間は数寄屋風であり、さらに奥の書斎は英国の山小屋風という、和洋折衷の自由な発想の設計である。



旧小坂邸庭園平面図

庭園のみどころ

南向きの斜面を利用した美しい庭園を居間から眺めることができ、建物と樹林が一体となった美しい景観を形成している。庭園部分にはコナラやトチノキなどの樹木が武蔵野の雑木林の面影をとどめており、世田谷区の花であるサギソウやカタクリが咲く、竹林と紅葉が美しい庭園である。また、湧水は、沢蟹やオニヤンマのヤゴなどの住処となっている。



崖線中腹からの眺め

土地の履歴

明治40年（1907）に「玉川（現・二子玉川）」駅が開業する。昭和4年（1929）には「上野毛」駅が開業したことにより、都心との交通アクセスが格段に良くなった。

また「上野毛」駅の西側、環状8号から上野毛方面は国分寺崖線が続く高台にあり、このことから、瀬田四丁目には多くの別邸が誕生し邸宅街としての地位を確立していく。

昭和12年（1937）に小坂順造の別邸として旧小坂家別邸が建設された。昭和12年（1937）7月起工、10月上棟、昭和13年（1938）9月竣工された。

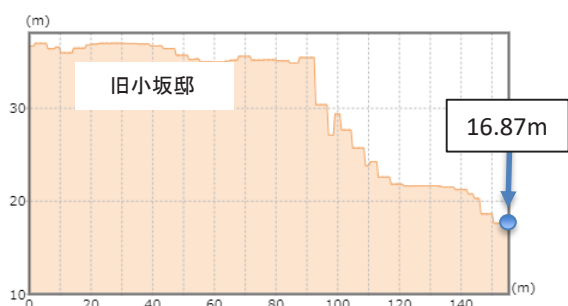
（建設・施工は清水建設の前身である清水組）

平成8年（1996）10月に世田谷区が緑地保護のために公開用地として土地を購入し、庭園を含めて整備された。また、建物は小坂家より寄贈を受け「瀬田四丁目旧小坂緑地」として一般公開されている。

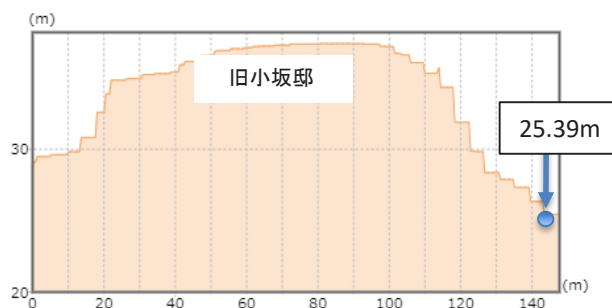


茶室跡地

旧小坂邸庭園の標高差



（北南縦標高）最高：36.93m
最低：16.87m 高低差：20.06m



（東西横標高）最高：37.75m
最低：25.39m 高低差：12.36m
建物は台地の上に建てられている。

歴史図面や写真



邸宅跡地地図

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり 冊子より



1945～1950（昭和20～25年）空中写真

地図・空中写真閲覧サービス

参考資料：

1. 三堀春男（2017）：「風のコラム」vol.17/18、世田谷トラストまちづくり大学同窓会
2. ネットで住みかえノムコム nomu.com : <https://www.nomu.com/machikara/2656/>（2020年5月30日参照）
3. 野村不動産 : https://www.proud-web.jp/magazine/town/town_10/（2020年5月30日参照）
4. 世田谷区SETAGAYA CITY <https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujikusei/012/015/001/004/d00023421.html>（2020年5月30日参照）
5. 世田谷散策日記 ～せたがや地域風景資産～ : https://setagaya339.net/fukei/3_01_10/310_fukei.htm（2020年5月30日参照）
6. 世田谷区教育委員会（2001）：世田谷区文化財調査報告集10
7. 世田谷トラストまちづくり（2012）：世田谷の近代建築 発見

静嘉堂文庫・玉川別邸庭園 (静嘉堂文庫美術館庭園)



◆作成・文 三浦 樹
東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 3年

場所：〒157-0076 東京都世田谷区岡本2丁目23
東京都世田谷区の閑静な住宅街の中にある緑地。せたがや百景 選定。
アクセス：東急田園都市線二子玉川駅より徒歩25分、バス10分

庭園の概要

この国分寺崖線上の岡本の地は、もともと岩崎家が所有した土地で、岩崎家の別邸とそれに隣接した庭園があった。明治43年（1910）に三菱財閥4代目総帥岩崎小彌太が、父、彌之助の三回忌に合わせて、この地にジョサイア・コンドル設計の霊廟を建設した。その後、大正13年（1924）に、岩崎彌之助、小彌太、父子二代によって設立され、東洋の古美術品の収集がされた静嘉堂の、主に図書を収蔵する文庫（現在の静嘉堂文庫）を、上記の霊廟の側に建設した。時は流れ、昭和52年（1977）から静嘉堂文庫展示館にて、収集された古美術品のコレクションの一般公開が始まり、平成4年（1992）、静嘉堂創設百周年に際して、新館が建設され、静嘉堂文庫美術館が開館した。

敷地内の庭園に関しては、現存せず、昭和20年（1945）頃に庭園としての維持、管理が途絶えているとされる。その後、ほとんど人が立ち入らない放置状態が続いていたことから、現在では、深い照葉樹林が形成され、自然林となっている。現在は、静嘉堂文庫美術館が所有する施設、敷地以外の土地は、自然保全地域として世田谷区によって管理されている。



霊廟 設計：ジョサイア・コンドル



岡本静嘉堂緑地 敷地内平面図

立川市砂川から、大田区田園調布付近まで延びる国分寺崖線の一角、野川と多摩川が合流する二子玉川地域周辺に位置している。開発の影響を受けづらかった崖線に位置し、また、北には砧公園、南には多摩川河川敷と自然が多く残る場所に立地している。敷地内に湧水があり、東京の名湧水57選に指定されている。

もっと狭域に岡本静嘉堂緑地周辺を見る。敷地は、前記の野川とは別の小河川、谷戸川と丸子川の合流する地点の内側に位置している。緑地の敷地内はかなりの高低差があり、丘陵のような地形となっている。敷地内に入り登っていくと丘の上部に、静嘉堂文庫美術館、霊廟、静嘉堂文庫などの施設が造成されている。地理院地図による計測によると、低地部（丸子川周辺）の標高が約15m、それに対し、諸施設が造成されている丘の上部（霊廟周辺）の標高が35m、約20mもの比高差がある。この傾斜を利用して、低地部に降りる斜面に、小規模の回遊式の庭園が造成され、上部のテラスからは、世田谷、川崎の街並みを眺めることができる。

庭園のみどころ

この岡本静嘉堂緑地（静嘉堂文庫美術館 庭園）は、「庭園」というより「緑地」という感じである。静嘉堂文庫美術館に隣接したような形で、小規模の回遊式の庭園が造成されているが、本項では、この庭園を含めた、緑地全体としてのみどころを、筆者が現地に訪れた際に感じたものを中心に紹介していこうと思う。

みどころ1. 深い自然

まず、見どころの一つ目は、深い自然である。現在、樹林地は自然保護地域として管理されていることから、中に立ち入ることはできないが、敷地内をめぐるように設置されている遊歩道から、林床を眺めることができる。筆者が現地に訪れた日は、快晴でとてもあたたかい日であったのだが、敷地に入り、森に囲われるととても涼しく、木々の隙間からもれる木漏れ日がとても心地よかった。東京の都会の喧騒とした雰囲気から逸脱した、岡本静嘉堂緑地の森の中を、鳥のさえずりを聴きながら、川を流れる水の音を聴きながら、揺れる木の葉を眺めながら、「武蔵野の自然」を感じながら、歩き、休み、くつろぐのもよいものである。



静嘉堂文庫 設計：桜井小太郎

みどころ2. 建築

見どころの二つ目は、建築である。敷地内には静嘉堂文庫美術館本館のほかに、近代の建築家桜井小太郎設計で、東京都選定歴史的建造物に指定されている静嘉堂文庫、三菱一号館や、鹿鳴館など多くの建築を手がけた、英国人建築家ジョサイア・コンドル設計の霊廟、二つの近代建築が現存している。自然と調和した、レトロで潇洒な雰囲気の近代建築を眺められ、歴史を感じられるのも一つの魅力である。

みどころ3. 庭園

見どころの三つめは、庭園である。美術館に隣接するように、崖線の斜面を利用した回遊式の庭園がある。美術館横の庭園入口から鬱蒼とした樹林の中を少し下っていくと、少し開けた庭園に出る。クロマツやアカマツなどの樹木が見られるが、主にウメが植栽され、小規模な梅林のようになっている。庭園を抜けて、少し上がっていくと展望テラスに出る。テラスからの眺望はとても良いもので、手前の樹林の奥に世田谷と川崎の街並みが眺められる。アップダウンがある庭園の園路を通らずに展望テラスに直結する道があるが、景色を眺めてすぐ帰ってしまわずに、庭園の中をのんびり散歩してみたいだろうか。



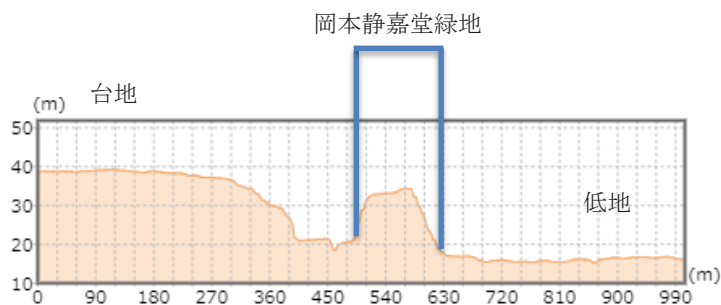
庭園内 テラスに向かう遊歩道

歴史図面や写真



1961-1969（昭和36-44年）空中写真
地図・空中写真閲覧サービス

緑地周辺の標高差



（東西縦標高）岡本静嘉堂緑地敷地内
最高：35.3m 最低：15.2m 高低差：20.1m

敷地内の丘の上部に、建物が造成され、丘の上部から低地部に降りる斜面に庭園が造成されている。

参考資料：

1. 静嘉堂文庫美術館ホームページ：<http://www.seikado.or.jp>（2020年6月5日参照）
2. 近代建築写真館ホームページ：http://modern-building.jp/sakurai_kotaro.html（2020年6月12日参照）
3. 世田谷区ホームページ：<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/sumai/005/002/d00038442.html>（2020年6月5日参照）

旧五島慶太別邸庭園 (五島美術館庭園)



◆作成・文 吉田 雄哉
東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 3年

様式：自然主義庭園

場所：〒158-8510 東京都世田谷区上野毛3-9-25

五島慶太氏が構想した五島美術館の敷地内にある庭園。

アクセス：東急・大井町線 上野毛駅より徒歩5分

入館料：一般1000(800)円／高・大学生700(500)円／中学生以下無料

※庭園のみの場合、料金は300円
(中学生以下無料)

※カッコ内は障害者手帳をお持ちの方とその介助者の方の料金

庭園の概要

五島美術館は昭和35年（1960）4月18日に私立の美術館として世田谷区の上野毛に開館した。

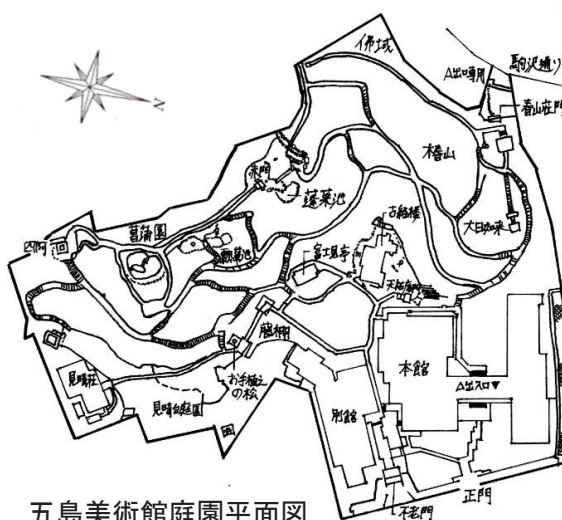
構想は東京急行電鉄株式会社（通称：東急）の事実上の創立者である五島慶太によるもので彼の収集した美術品を公開する為に設立された。

美術館の敷地内につくられた庭園は、自然をそのままに石仏、石灯籠などを配置し、経路を敷いた土地が庭園となっている。また、庭園の設計は、高村造園（現：東急グリーンシステム）を設立し、近代造園草創期の造園家として活躍した高村弘平によるものだという。

庭園の様式は、和風の庭であると言えるが、「整然とした日本庭園」と形容するよりは、「自然風の庭園」という表現が妥当と言える。台地下部には山門や多くの石仏、また池泉などが点在するのに対して、台地上部には本館と「見晴台庭園」という芝生の庭園が広がり、「見晴台庭園」からは眼下に二子玉川の街を、天候に恵まれれば富士山を眺める事が出来る。

面積は、美術館の全敷地が約6000坪あるのに対して、庭園部分だけでも約5000坪と美術館の敷地の8割程を庭園が占めている。

地形的な特色としては、多摩川が武蔵野台地を侵食して出来た国分寺崖線上の傾斜地にあり最大比高差は20.0mと20mもの差がある。



五島美術館庭園平面図

庭園のみどころ

庭園内はツツジや枝垂桜、藤の花にボタン、そして紅葉と季節ごとに多彩な色を見せるが、中でも「上野毛のコブシ」という東京都の指定天然記念物にもなっているコブシや「お手植えの松」という昭和天皇が皇太子時代に自ら植えられたとされる松には一見の価値がある。またこの他にも、「蓬萊池」「瓢箪池」「菖蒲園」といった3つの池や、「古経楼」「富士見亭」という国の登録有形文化財に指定された茶室もみどころである。さらに園内には「六地藏」や「大日如来」など五島慶太が伊豆や長野の鉄道事業の際に引き取ったとされる石仏や石灯籠が数多く点在しており、石灯籠には善導寺型灯籠という、中台の側面がハート形に彫り込まれている特徴的なものもある。



見晴台庭園から眺める二子玉川の街の風景

土地の履歴

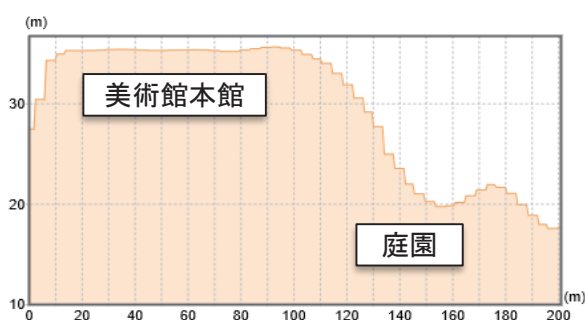
庭園の土地には、隣接する遺跡（稲荷丸北遺跡）の発掘調査によって、都内では珍しい縄文時代の前期における竪穴式住居の集落址や貝塚などの様々な遺構が見つかっているという。

明治から美術館が建設されるまでは、台湾総督や逓信大臣を務めた政治家・田健治郎の「萬(万)象閣」と呼ばれる邸宅があり、庭園内にある茶室「古経楼」は田氏が明治39年（1906）に建築した茶室を五島慶太が「松寿庵」を増設し改修したものだという。

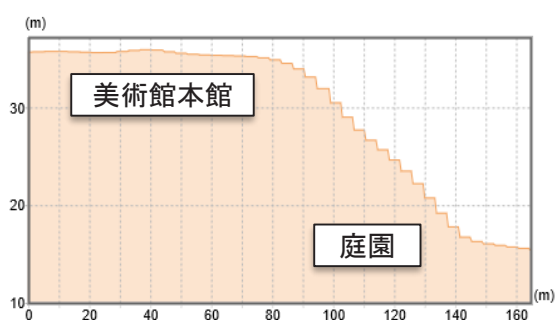


庭園内にある稲荷丸古墳

五島美術館庭園の標高差



（北南縦標高）最高：35.8m
最低：17.8m 高低差：18.0m



（東西横標高）最高：35.8m
最低：15.8m 高低差：20.0m

歴史図面や写真



五島美術館庭園 標準地図
地理院地図（電子国土Web）



1961年～1969年（昭和36年～44年）空中写真
地理院地図（電子国土Web）

参考資料：

1. 五島美術館ホームページ：<https://www.gotoh-museum.or.jp/>（2020年6月28日参照）
2. 五島美術館 建築・庭園：<https://www.gotoh-museum.or.jp/museum/garden.pdf>（2020年6月28日参照）
3. おにわさん・五島美術館庭園：<https://oniwa.garden/goto-museum-garden-五島美術館庭園/>（2020年6月28日参照）
4. 二子玉川まち情報プロジェクト（2017）：五島美術館お散歩 上野毛～二子玉川 2017春夏号：公益財団法人五島美術館：<https://futakoloco.website/1310>（2020年6月28日参照）

等々力溪谷公園 日本庭園



◆作成・文 松浦 秀喜
東京農業大学地域環境科学部造園科学科 学部3年

様式：和風庭園

場所：〒140-0001 東京都世田谷区等々力1-22 2-37

等々力溪谷公園内にある庭園。

アクセス：最寄り駅 東急大井町線 等々力駅より徒歩10分

田園調布駅・上野毛駅・千歳船橋駅より路線バス（東急バス、都営バス）

「等々力駅入口」バス停下車 徒歩5分

庭園の概要

等々力溪谷公園自体は昭和8年（1933）に多摩川風致地区に指定されたことによって、等々力溪谷公園の周りの土地は、全て住宅街や道路になってしまったが、公園部分においては、自然保護を目的とした、樹木の伐採や住宅建設などが制限され、等々力溪谷付近は自然を残し今もなお生態系が形成され続けている。

等々力溪谷公園内にある庭園には敷地内に書院建物があり、こちらは昭和36年（1964）に建てられた。その後昭和48年（1973）に作庭家である飯田十基によって庭園が造られた。

この庭園は当時のままの姿で保存されている。当時は重機などがなかったため、斜面の全ての石組み、階段などは、人力で運び・据え付けたと言われている。

庭園のみどころ

筆者が庭園に行ったときに感じたことを中心にお勧めを紹介したいと思う。

見どころ1：入り口入ってすぐの竹林である。竹が大きく成長しているため、迫力があり、公園内とは違った印象を受け心を奪われると思う。晴れた日には隙間からの木漏れ日がとても美しい。そして、雨の後の晴れ間は水滴が反射して、普段見れない景色を体験できる。

見どころ2：中腹には日本庭園らしい池である。灯籠があり、水のせせらぎが小さく聞こえるのがポイント！池の前で話すのをやめると水の音が聞こえる感じがとても心地良い。とても小さな滝があるため、風情を感じられきる。

最大の見どころ：階段を登り切ったところ広がる芝生である。書院を通り過ぎると見ることが出来、登り切った時に見えるため、気持ちよくこの景色を受け入れられる。



等々力溪谷公園日本庭園位置図(図中の赤丸)



入口入ってすぐの竹林の景色

土地の履歴

等々力溪谷は、谷沢川の下流部、武蔵野台地の南端に位置している。河川の争奪現象により水量を増した谷沢川が、その激しい浸食作用によりできた開析谷が等々力溪谷となっている。その場所に等々力不動尊がありこの対岸に書院があり、その前に庭園という配置になっている。

23区唯一の溪谷であると言われているのが等々力溪谷である。こちらは東京都指定名勝になっている。溪谷については下から基礎となっている高津互層、渋谷粘土層、武蔵礫層、武蔵粘土層、東京軽石層、ローム層（武蔵ローム層、立川ローム層）が、ほぼ水平に堆積している。

溪谷の南に等々力不動尊があり、左階段下に不動の滝がある。この滝の右側に武蔵野台地を形成する上記の地層が観察できる場所がある。

等々力溪谷は深さが約10mあり、ケヤキやシラカシ、コナラ、イロハカエデなどの樹木が鬱蒼と茂っており、溪谷の至る所から水が湧き出ている。

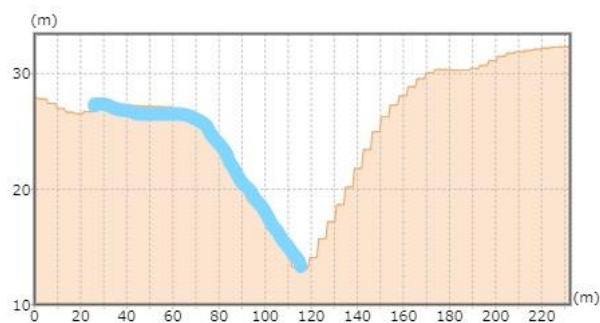
約30ヶ所以上から湧き水が発生し、一部が窪地に集まることで湿地を形成している。この湧き水は東京都により、2003年（平成15年）に東京の名湧水57選に選定されている。

等々力という名は、等々力溪谷に流れ落ちる「不動の滝」の轟く音に由来するという説が有名であるが、ほかにも溪谷の崩落する音から来たという説など諸説ある。

等々力溪谷の標高差



（北南縦標高）最高：26.9m
最低：9.08m 高低差：17.82m



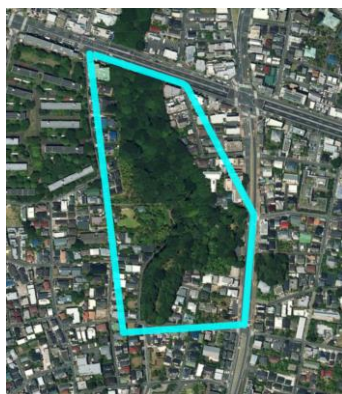
（東西横標高）最高：31.36m
最低：12.85m 高低差：18.51m

※青の線の部分が庭園の範囲

歴史図面や写真



1936（昭和11年）の等々力溪谷公園
地図・空中写真閲覧サービス



2018（平成30年）空中写真
地図・空中写真閲覧サービス

参考資料：

1. 等々力溪谷公園 世田谷ホームページ：www.city.setagaya.lg.jp（2020年6月20日アクセス）
2. 等々力の飯田十基の庭園を見る：<http://www.todafu.co.jp/news/2018/309.html>（2020年6月20日アクセス）
3. おにわさん 等々力溪谷公園日本庭園：<https://oniwa.garden/todoroki-valley-park-japanese-garden>（2020年6月23日アクセス）

まとめ

それでは最後に、今回調査した12庭園の結果から、冒頭で示した以下2つの疑問点について考察を深めた。
(文：小島周作)

何故縁辺部に位置する近代庭園が多いのか？

まずこの命題は、以下のように捉え直す必要があるだろう。

「何故残存した近代庭園は縁辺部に多いのか？」

何故なら、明治期に作庭された庭園は台地の縁辺部以外にも台地の内陸部や低地にも数多く存在していたからである。

そして、縁辺部の庭園が多く残存している背景を考える際、都市化のプロセスの違いから、都心部（山手線内側）と郊外部の2つの地域に分けて考える必要があるだろう。

それでは、まず渋谷川や目黒川流域など都心部に位置する近代庭園について考察してみる。

これらの近代庭園は、旧朝倉家住宅庭園と旧高輪プリンスホテルの庭園を除いて、全てが江戸時代の武家地または幕府御用達の行楽地（御伝山）を継承した庭園となっていた。江戸時代に大名や幕府に都心部の台地の縁辺部が選好されたのは、作庭におけるデザインの優位性（眺望の良さや池・滝組の作りやすさ等）が大きな要因の一つとなっていたに違いない。

そして、その土地が近代以降も庭園空間として継承されたのは、そのデザインの優位性と都心部という立地特性から、日本を代表する富豪達にも選好され、現在に至るまで庭園を継承できるほどの財力を有していたからであると考えられる。財力に余裕があったからこそ、庭園を単なる土地と捉え転用・売却するのではなく、きちんと庭園空間として後継団体に継承したり、自治体に寄付することが可能であったのだろう。

次に多摩川流域など、郊外部の縁辺部に位置する近代庭園について考察してみる。今回調査した限りでは、全ての庭園が明治期～昭和期に

新規に作庭されたものであった。これらの庭園が郊外部における居住空間として近代以降の富豪や文化人達に選好された理由は、前段と同様に作庭デザインの優位性が挙げられるだろう。

そして、これらの庭園が残存した理由には、継承主体の財力の高さもさる事ながら、台地縁辺部の開発圧力が相対的に低かったことと、多摩川流域の庭園群に至ってはその周辺が1933年に多摩川風致地区に指定されたことで、都市計画的に緑地空間を担保する仕組みが用意されたことが大きいと考える。

それらの近代庭園のデザイン的特徴は何か？

今回の調査結果をまとめた下表より、各庭園の敷地内における各構成要素の立地関係について概観すると、「高台平場：建築物→傾斜地：樹林地→低地平場：日本庭園」のタイプと「高台平場に建築物と日本庭園が並列に立地」するタイプ、の2タイプがみられ、地域ごとの違いはみられなかった。しかし、両タイプともに居住空間となる家屋は高台に配置されており、近代庭園が台地主義と言われる所以を改めて確認することが出来た。

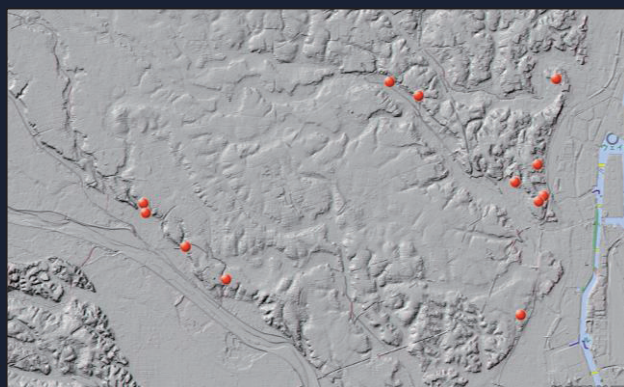
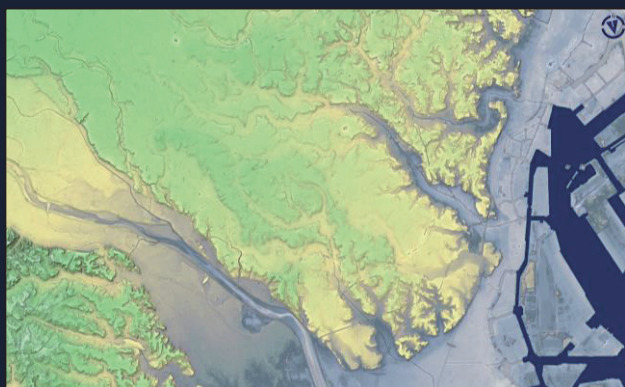
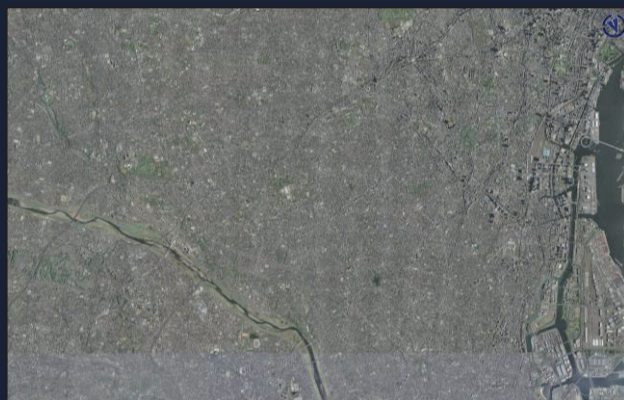
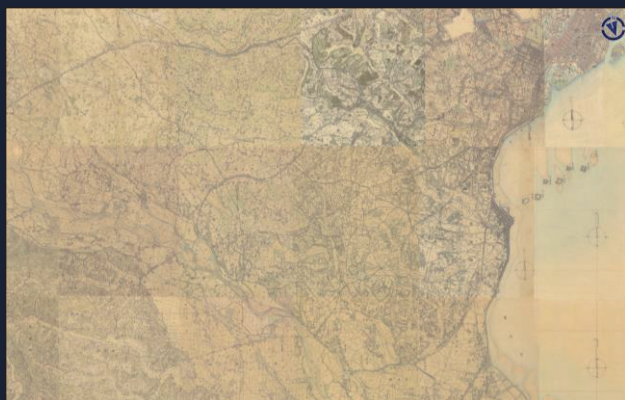
また日本庭園は様々なタイプが存在しており、特に台地縁辺部という立地特性から、傾斜地や低地に滝組や池を配置する庭園が多くみられた。

最後に作庭当時の庭園からの眺望対象については、現地調査から断定することは困難ではあるが、多くの庭園で、当時の周辺の土地利用状況が水田であったことや、借景など眺望を活かした庭園装置が随所にみられたことから、自然風景を楽しんでいたことは想像に難くない。

表 調査対象となった12庭園の作庭経緯と立地区分の整理

立地流域 (台地)	近代庭園名	作庭経緯	立地区分		
			高台平場	傾斜地	低地平場
渋谷川流域	三井家別邸庭園（綱町三井倶楽部庭園）	武家地の継承	建築物（洋館）	樹林地	日本庭園
目黒川流域	旧西郷従道邸庭園（菅刈公園、西郷山公園）	武家地の継承	建築物（和洋折衷）・芝庭（洋風）	樹林地	日本庭園
	旧朝倉虎治郎邸庭園（旧朝倉家住宅庭園）	明治期新設	建築物（和館）・日本庭園	樹林地	—
	旧島津家本邸庭園（清泉女子大学 奥庭）	武家地の継承	建築物（洋館）・日本庭園	樹林地	—
	旧高輪プリンスホテル日本庭園 （グランドプリンスホテル高輪）	昭和期新設	建物（ホテル）・日本庭園	—	—
	旧岩崎家高輪本邸庭園（三菱開業庭園）	御殿山からの継承	建物（洋館）・芝庭（洋風）	建物（和館）・日本庭園	—
	旧原六郎邸庭園（御殿山庭園）	御殿山からの継承	建築物（洋館）	樹林地	日本庭園
住原台	旧安田善助邸庭園（品川区立品川歴史館庭園）	詳細不明	建築物・日本庭園	樹林地	—
多摩川流域	旧小坂順造邸庭園（世田谷区 瀬田四丁目旧小坂緑地）	昭和期新設	建築物（和洋折衷）	樹林地	日本庭園
	静嘉堂文庫・玉川別邸庭園（静嘉堂文庫美術館庭園）	明治期新設	建築物（洋館）	樹林地	日本庭園
	旧五島慶太郎邸庭園（五島美術館庭園）	昭和期新設	建築物（洋館）	樹林地	日本庭園
	等々力溪谷公園・日本庭園	昭和期新設	日本庭園	樹林地	樹林地・河川

近代庭園マップ東京2020
東京都心
目黒川・多摩川流域編



近代庭園マップ東京2020 東京都心 目黒川・多摩川流域編

発行日：2020年8月29日

作成：近代庭園マップ東京研究会

発行：東京農業大学 庭園文化研究室

(表紙デザイン：中谷夏巳 裏表紙デザイン：小島周作)